

宿泊型体験学習「しもきたジオキャンプ」の取り組み

北川桐香・岩崎和徳・石川智・佐々木なつみ・中村健一・宮北健一・山本賢伸・池田啓彰・間山貢樹・相馬和史(下北ジオパーク推進協議会)



はじめに：「しもきたジオキャンプ」の背景・目的

「しもきたジオキャンプ」は、地域内の小学6年生を対象とした、地域資源や地形に関する学習、アクティビティの体験を通じて、楽しみながら地域の魅力を学ぶ1泊2日の宿泊型体験学習である。

下北ジオパークではこれまで、イベントで子ども向けの体験コーナー等の設置や、各学校からの依頼を受けた出前講座や現地見学の実施などを行ってきた。しかし、よりジオパークに興味・関心のある子どもたちに対してはアプローチできる機会がなかった。そこで企画されたのがしもきたジオキャンプである。

この事業は、ジオパークに興味がある子ども達に発展的な学習や活動を提供する場を設け、探究心や郷土愛を高めることを目的とする。また、参加児童が2日間の活動の成果をまとめたポスターは、毎年行われる「下北ジオパーク学習・活動発表会」で掲示することとし、活動内容や成果が共有されることによる地域内のジオパーク学習のさらなる発展を目標とした。



▲図1:これまでのアプローチ (a) 出前講座 (b) イベントでのブース設置



▲図2:下北ジオパーク学習・活動発表会

下北ジオパーク学習・活動発表会
その年に行われた学校や地域団体のジオパークを活用した取り組みを発表する場で、毎年開催しています。



▲図3:しもきたジオキャンプチラシ

テーマの設定：体感！水がつなぐ大地と海の物語

むつ市大畑地区にある、むつ市下北自然の家(指定管理者:むつ市教育福祉振興会)では、約20年前から、川の源流から海まで下る野外プログラム「雨の一粒ハイキング」を実施してきた。また、下北ジオパークでは、2020年に流れる水のはたらきを再現できる水理実験装置「エムリバー」を導入し、ビジターセンターでの体験や地域内で行われる講座などに活用している。さらに、小学校5年生の理科では「流れる水のはたらき」を学ぶことから、テーマを「水のはたらき」にクローズアップしたものとし、エムリバーの学習と雨の一粒ハイキングを組み合わせた内容とすることとした。雨の一粒ハイキングを行う小出川は、川底や川沿いに火山砕屑岩が分布することも考慮し、小学校6年生の理科「大地のつくりと変化」にも関連づけた解説を組み立てた。



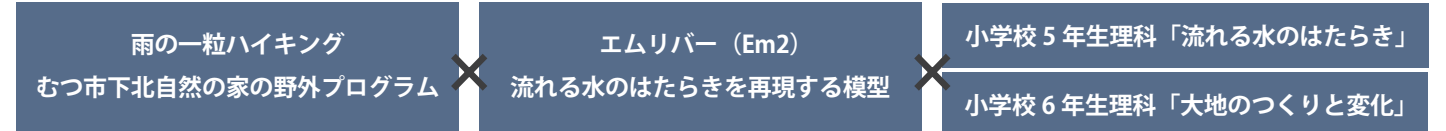
▲図4:雨の一粒ハイキング



▲図5:水理実験装置エムリバー



▲図6:小出川周辺に分布する凝灰角礫岩



活動のようす

1回目となる「しもきたジオキャンプ」は、2021年7月22日(木祝)～23日(金祝)に、むつ市下北自然の家周辺で開催された。参加児童はむつ市、大間町、東通村在住の14名(男子:6名、女子:8名)で、4～5名ずつ3班に分け、それぞれの班に1名ずつ班担当スタッフを配置した。当初予定していたプログラムは図7の通りで、学習・体験を交互に行うことで内容を深められるよう設計した。

活動の集大成として班ごとに1枚のポスターを作成するグループワークを行うため、参加児童のコミュニケーションが円滑に進むよう、基本的には班単位での行動とした。

当日、大幅な変更があったのが、夜間のレクリエーションとして予定していたキャンプファイヤーである。これは、会場周辺でクマの目撃情報があり、日没後の屋外での活動が危険であると判断したため、急遽屋内で行えるキャンドルファイヤーへ当日変更した。

7.22 (木・祝) 1日目	7.23 (金・祝) 2日目
10:00 むつ市下北自然の家 集合・受付	7:30 朝食
10:20 出会のつどい	8:30 ちぢり浜について知ろう
11:20 川の成り立ちを知ろう 河川を再現する模型「エムリバー」を用いた体験型学習	9:30 ちぢり浜に行こう ふしぎな形の岩と、海の生き物の観察
12:00 昼食	11:00 グループワークで活動のまとめ①
13:15 雨の一粒ハイキング 全身ずぶ濡れ!約3時間の野外プログラム!	12:00 昼食
17:30 夕食 下北の食材を使ったBBQ	13:00 グループワークで活動のまとめ②
19:00 レクリエーション ※参加費1,000円は、初日の受付時に徴収いたします。	14:15 成果発表会 別れのつどい、記念撮影
	15:30 解散

※ プログラムは現時点のもので、変更となる場合がございます。

- 学 習…原則、学習(座学)→体験とし、学んだことを体感できるよう工夫する。大地、川、海のつながりを強調。
- 夕 食…下北の食材を使ったBBQとする。食べ物にも興味をもってほしい。
- まとめ…グループワークでポスターを作成。1日目の最後に振り返りの時間をもうけ、2日目の足掛かりとする。

▲図7:当初予定していたプログラム。夜間のレクリエーションとして予定していたキャンプファイヤーは変更となった



▲図8:活動のようす (a) 出会のつどい (b) エムリバーを使った学習 (c) 雨の一粒ハイキング (d) キャンドルファイヤー (e) ちぢり浜での現地見学 (f) 成果発表会

「しもきたジオキャンプ」を終えて

参加児童の感想を振り返ってみると、今回の事業は、地域のことをより深く知る機会であるとともに、学校を超えて交流することの少ない同世代の子どもたちと心を通わせる貴重な機会となったことを強く感じた。今後も地域の自然を通して、下北の子どもたちとともに学ぶ機会を作っていければと思う。

しもきたジオキャンプから約2週間後の8月9日、青森県下北地域・上北地域を襲っ

た豪雨により、風間浦村とむつ市大畑地区をはじめとする地域内で、土砂崩れや橋の崩落などの被害が発生した。雨の一粒ハイキングを行った小出川も、大きく姿を変えたと考えられる。今後はこの災害の記録も、子どもたちに残していきたい。

謝辞:しもきたジオキャンプの開催にあたり、全面的にご協力くださったむつ市教育福祉振興会のみなさまに、心から御礼申し上げます。